

開倫塾を志望する皆様へ

ー塾長 林 明夫からのメッセージー

・読みやすいように、Q and Aの形で書かせて頂きます。

Q 開倫塾はどこにあるのですか。

A (林 明夫。以下略)栃木県を中心に、群馬県の東側に位置する太田市と茨城県の西側に位置する古河市、つまり北関東三県に全部で44校舎あります。

今後は、既にある校舎を充実させると同時に、少しずつではありますが、毎年合計で2～3校舎ずつ、栃木県を中心に群馬県東部、茨城県西部、埼玉県北部の所謂(いわゆる)「北関東」という限られた地域を対象に、開倫塾を展開していく予定であります。

本部は、「足利学校」の遺跡があり、創業(1979年)の地でもある、栃木県足利市にあります。

Q 今、創業の話が出ましたが、開倫塾はどのように創業されたのですか。

A 慶應義塾大学法学部法律学科を卒業後、司法試験の受験のために、予備校や学習塾の講師、家庭教師をしながら同大学の司法研究室生として研究生活を送っていたのですが、29歳の時に司法試験の受験を断念。これから一生の仕事として何をしようかと考えていた時に、大学時代に刑事政策の研究会(宮沢浩一先生のゼミ)で刑務所や少年院などの矯正(きょうせい)施設を何か所か視察し、その際に、刑務所長や刑務官の先生から「ちゃんと勉強さえしていれば、このようなところに来なくてもいい人がほとんどなのに…」と言われたことを思い出しました。そこで、少しでも世の中や子どもたちのためになることができると、足利市の南端に8畳と4畳半の2間ある家をお借りして開倫塾を創業しました。

開倫塾では、学校で受けた授業の補習と希望校に向けての受験勉強の他にも様々な社会的活動を行っていますが、その理由の一つは、このような創業に至る経緯のためです。

Q 例えば、どのような社会的活動をしているのですか。

- A** (1)開倫塾では、「社会との調和」を大切に考えます。「コンプライアンス」、つまり「法令遵守」や道徳を守るなど、社会的な規範を大切なものとして守りながらの経営を目指しています。
- (2)スクール・ハラスメントにあたる、性別や出生、年齢による差別的な行為はもちろん禁止。防災、防犯、救命訓練なども、地元の警察や消防署、警備会社などの協力を得て年間計画を組み、行っております。
- (3)同時に、NPO活動やNGO活動の企業としての支援も積極的に行っております。とりわけ、一人ひとりの人間の「能力強化(エンパワーメント)」と「保護(プロテクト)」を内容とする「人間の安全保障(ヒューマン・セキュリティ)」の促進を基本理念に設立された「開倫ユネスコ協会」については、開倫塾をあげて支援しております。

(4)また、開倫塾の付属機関である開倫研究所を設立。開倫塾が対象とする小学生、中学生、高校生をめぐる様々なホットな問題について、アンケート調査を実施。塾生や保護者のみならず、インターネットやマスコミを通じて、地域社会の皆様にもその結果を公表。社会に目を向けて、ものごとを自分の力で考えるきっかけをつくってもらいたいと思っています。

(5)「新聞を教育へ(N I E、Newspaper In Education)」の活動もさかんです。学習塾の授業中という限られた時間の中ですが、塾生に読んでもらいたい新聞記事をいくつかコピーして渡し、すべての記事を一度音読してから、気に入った記事を選んで何行かの感想を書いてもらっている先生など、先生方が、いろいろな方法を自由に工夫して、新聞を使った教育に取り組んでいます。

読書の絶対量が学力の決め手となりますので、開倫塾では、新聞を読んで自らの力でものごとを考える能力を育成すると同時に、文章を読む量を確実に増やして学力向上を図りたいと考えています。「小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 60 分、新聞を毎日読んで自分の力で考える能力を身に付けよう」が、開倫塾の合言葉です。また、英検 2 級に早めに合格して、日本語の新聞を 1 時間読んだ後に、その中の内容がよくわかった記事だけでもよいので、辞書をひかずに「英字新聞」を毎日 1 時間以上がまんして読む能力を身に付けることも奨励しています。

塾生の大半が、高校卒業後に、大学等の高等教育機関に進学しますので、高校卒業までに一人ひとりの「自己学習能力」を育成して送り出したい。その一つが、「新聞を読んで考える能力」の育成です。

(6)開倫塾では、「規範教育」もさかんです。学校での「いじめ」の大半は、もし大人が同じことをすれば、例えば暴行罪や傷害罪などに該当する「犯罪行為」である場合がほとんどです。何が犯罪なのかを具体的に示し、やってよいことか悪いことかをよく考える。犯罪に巻き込まれないようにするにはどうしたらよいかを、新聞を読んで考えることを奨励しています。

さらに、「開倫塾 15 の躰(しつけ)」プログラムを毎年作成し、春・夏・冬の講習会と月ごとに合計 15 の「今月の目標」を示し、具体的な取り組みを奨励しています。開倫塾では、「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」と「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」を「躰(しつけ)」の内容と考え、自分の力で躰を身に付けられるよう促しております。

Q 開倫塾は、まるで学校のようなですね。開倫塾では、学校と学習塾の関係をどのように考えているのですか。

A 教育の大半は学校で行い、学習塾はその不足分を補うものと考えます。学校教育の不足を補うのが開倫塾であると考えますので、学校で不足していると思われるものがあれば、その不足分をどんどん補わせて頂きます。

問題解決型の教育相談室である「開倫研究所教育相談室」の活動も、積極的に行っております。開倫塾の各校舎では対応の難しい問題を抱えている塾生について、専門の先生が無料・秘密厳守で問題解決に当たっています。これも、学校の「心の相談員」では不足するものを補う、開倫塾としての活動の一つです。

Q 開倫塾の研修制度は、どのようになっていますか。

A 開倫塾は、「社員重視」を目標としています。「社員重視」は、「雇用の維持」を意味します。但し、雇いを維持するためには、一人ひとりに「雇われる能力(**Employability**、エンプロイアビリティ)」が求められます。そのためには、一人ひとりの「能力強化(**Empowerment**、エンパワーメント)」が必要です。そして、能力が強化された場合にのみ「権限委譲」が果たされると考えます。開倫塾では、このような意味での「社員重視」の考えに基づき、すべての研修がなされています。このように、開倫塾のすべての研修は、先生や事務職員一人ひとりの「能力強化」と、「権限委譲」を通しての「雇用の維持」を実現するために行われています。

入社半年前からの毎月1回行われる土曜日研修、入社直前の二泊三日の宿泊研修、入社後半年間行われる新入社員のための毎月1回の土曜日研修、毎週1回行われる各ブロックごとの教科研修、校長等管理職希望者のための研修、ボイストレーニングを含む表現能力向上研修、コーチングの研修、英語の発音研修などなど、ほとんど毎週のように研修会が行われ、すべての研修会に誰でも無料で自由に参加できるのが、開倫塾であります。

多くの先生方から、「研修の開倫塾」と言われるまでになりましたので、2010年を目標に、今までの研修を整理し、見直し、体系立てた上で、開倫塾の先生や事務職員の能力強化のために「企業内大学(**Corporate University**、コーポレート ユニバーシティ)」と「企業内教職専門職大学院」の設立を目指しています。

MIT(マサチューセッツ工科大学)では、2000の開講科目のうち1400科目をオープン・コース・ウェア(**OCW**)という形式で、大学の知財を人類の発展のために無料でホームページにて公開しています。開倫塾の企業内大学や企業内教職専門職大学院の内容も、順次「オープン・コース・ウェア」としてホームページにて公開する予定です。オープン・コース・ウェアの練習として、拙いものではありませんが、私が発表した文章の多くを、拙いものではありませんが開倫塾のホームページの中にある林明夫のコーナーで公開しています。よろしかったらご覧下さい。

Q 開倫塾では、「教え方日本一」を目指しているそうですね。

A はい。開倫塾では、ものごとを行うときには志だけは高く持とう、目標は高く持とうと考えています。どのような学習塾かを考えるときにも志を高く持ち、「教え方日本一」の開倫塾を目指しています。

開倫塾という1教育機関の中で、教え方をよくするためには、「カリキュラムの質」の向上が不可欠ですので、どのようなカリキュラムがあるべき姿なのかをいつも議論しています。同時に、一定レベルの質を確保するために「教授法の統一」を行い、そのための研修会を絶えず行っております。同じ学年で同じ科目を教える場合にも、クラスによって状況が異なりますので、先生方は、毎時間ごとに、どのような順序でその日の授業を進めるのかを簡単な形で示す「レッシンプラン」を書き続けております。そして、授業終了後には、「リフレクション(自省、省察)」した事項を書き加えております。毎日の地道な授業改善が、先生としての教える力を向上させます。「レッシンプラン」は、先生としての成長の記録と言えます。

Q 開倫塾の企業としての社会的使命(mission、ミッション)とは何ですか。

A 開倫塾では、「顧客」とは一体誰なのかを真剣に考え、議論しました。その結果、「塾生」「保護者」「地域社会」と定義しました。

開倫塾の「企業としての社会的使命」、つまり「存在意義」「存在理由」は、顧客である「塾生」「保護者」「地域社会」の「成功の実現に貢献する」ことであります。

特に、主たる顧客である「塾生」は、今は小学生、中学生、高校生であっても、その大半が高校卒業後には、大学、短大、専門学校等の所謂(いわゆる)「高等教育機関」に進学するのが現状です。そこで、高校卒業時まで「高等教育機関での教育や研究に耐えられるだけの基礎学力と、一般教養課程や専門課程の前提条件となる自己学習能力を育成すること」が、「塾生の成功の実現に貢献する」ことと考え、このような観点から、学校教育を補う教育をすべての教職員が心を一つにして目指しております。

開倫塾の見学は、予めご連絡を頂いた上であれば、どなたでもご自由にできます。

「高い志」を持つ皆様のご見学を、心からお待ち申し上げます。